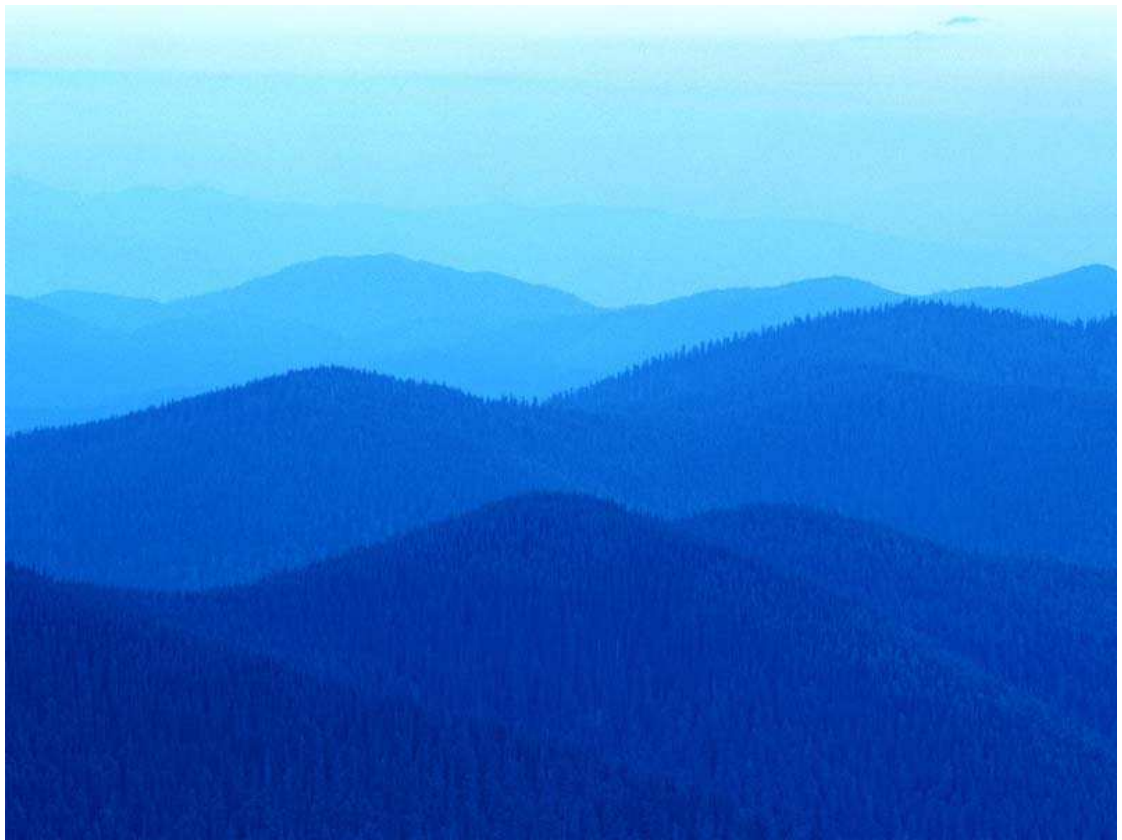


第 62 回・歴史教育者協議会全国大会（名古屋）レポート
第 2 1 分科会（障がい児教育）

レポート名：「高等部重度障がい児グループの社会見学の取り組み」

日時：2010年7月31日（土）～8月2日（月）

場所：南山高校（名古屋）



報告者：竹下 忠彦
東京都立府中特別支援学校
（東京都歴史教育者協議会）

（１）本レポートの目的

本校は、東京都多摩地域にある肢体不自由校である。高等部においては、6つの学習グループ（3つの教育課程）に分かれて教育実践が行われているが、どの学習グループでも年に1～2回社会見学を実施している。

本レポートでは、このうち重度障がい児グループ（高等部3グループ）の6月時の社会見学をどのように実施したかを報告する。

見学先は、地域の社会教育施設で、地域のボランティア団体の音楽演奏を鑑賞し、施設内のレストランで昼食をとった。往復の交通手段はスクールバスである。

レポーターの立場はこの行事の担当責任者である。担当責任者は2名であり、もう一人の若手教員と一緒に準備を行った。なお、レポーターは4月に本校に異動したばかりであり、社会見学の内容はすでに決められていた。すでに当日の見学内容が決まっている行事について、担当者としてどう事前指導して当日の社会見学までもっていったかを中心にレポートを報告する。

高等部の障がいの重い生徒たちにとって、社会見学の意味は何だろう。この年齢になると、同じような場所に繰り返し行き、力を発揮する経験をするよりは、新しいところにチャレンジ的に行ってみる。新しい状況の中でも力が発揮できることができる事が重要になってくるとレポーターは考える。

与えられた条件の中で、レポーターは事前学習に力を入れた。4回にわたる事前学習をシュミレーション劇中心に行い、中でもレストランの食事の場面に力を入れた。高等部に進んだこのグループの生徒たちにとって、外出先での食事の場面で、あらかじめイメージを持ち、自分たちのもっている力を発揮できることが大事と考えたからである。

外出先での行動について、主体的に関わることができることができたかどうか、この分科会参加のみなさんと共に考えたい。

（２）高等部3グループの生徒たちの実態

3グループは、12名の生徒で構成されている。それに対し教員8名で指導する体制である。生徒たちの実態は以下のようなものである。

〈健康・身体面〉

（①歩行、姿勢面）

- ・一人で立位がとれ歩行可能な生徒が3名、・介助者による介助があれば立位がとれ歩行可能な生徒6名、・介助があっても、立位が難しい生徒：3名
- ・授業1時間程度なら12名全員が車いす、またはいすを使用した座位にて過ごすことが可能である。ただし、いす座位の姿勢の取り方には配慮が必要である。

（②手指の動き）

- ・全員手を目的的に動かせる。（一部教員の援助が必要な生徒がいる。）
- ・手のひらに過敏がない。（一部過敏の傾向が残っている生徒がいる。）

〈認識・コミュニケーション面〉（社会性も含む）

- ・授業の全体の状況を、見ることにより何をしているかおおよそ把握できる生徒から、目の前に提示された物について教員の言葉かけにより見る（意識する）ことができる生徒までいて、見る力に幅がある。
- ・手元にある物を見る力に幅がある。教員による言葉かけにより、促す必要がある。
- ・全員が、授業のMTに注意（意識）を向けることができる。
- ・日常生活動作について、簡単な言葉かけにより理解し反応する生徒から、言葉＋身振り＋状況によって理解反応する生徒までいる（認識の力にも幅がある）。
- ・周りにいる人や集団の規模の違いによって、持っている力が発揮できる時、できない時がある。信頼できる大人の支援の元で、実力を発揮できる生徒たちである。
- ・授業の内容について、3～4回繰り返すと簡単な見通しがもてる。
- ・逆に5回以上繰り返すと、あきてきてしまう傾向がある。
- ・スイッチ操作等について、動作→結果を理解している。
- ・一緒にいる友だちを意識することができ、友だちに手を出したり、友だちの動作を見たりすることができる。

（コミュニケーションの力）

- ・全員が、身近な大人からの問いかけに対し、手をあげる、手指を動かす、声を出す、表情などの本人なりの安定した方法で、応答することができる。
- ・人との関わりを求める力、共感を求める力、要求を明確な方法で伝える力が育ってきており、それらの力を充実させるのが課題の生徒たちである。
- ・全員が、本人なりのYES・NO、快・不快、要求の意思表示の方法を持っている（声、表情、手や体の動きなど）が、NOの意思表示の力が弱い。

★保護者の社会見学に対する要望

- ・外出時にはできれば社会教育施設以外のレストラン等で食事してほしい。
- ・交通機関利用（特に電車の利用）に対する期待が高い。
- ・できるだけ色々な場所に連れて行ってほしい。

（3）生徒の実態を見て、どう準備しようとしたか。

以上の様な実態から、4回のシュミレーション劇を行い、社会見学で何をするか、何で行くかをおおざっぱにつかむ、当日に対する期待を高める、昼食に対する期待を高め、お金のやりとりを行うという「ねらい」を持ち、4回の事前学習の計画を立てた。

→4回の事前学習指導（案）参照

1回目 学校出発 → バス乗車 → センター到着 → ハンドベル鑑賞
→ 食事 → バス乗車 → 学校到着
の流れを3グループの生徒達なりにつかむ。

2回目 同じ流れで授業を行うが、食事の場面で 当日食べるメニューを決める。

3回目 同じ流れで授業を行い、「社会見学のしおり」を作成する。

4回目 同じ流れで授業を行う。食事内容の確認と会計に代金を渡す。

4回とも同じ展開で授業を行い、その回により焦点にあてる事柄を少しずつ変化させた。

(4) 事前指導での生徒たちの様子

バスに乗る場面

音楽鑑賞する場面

食事のシュミレーション場面

食事メニューを選ぶ

しおりの作成

☆2回目の事前学習（6月3日）の授業の様子

T君 機嫌がよい。バスが気に入りよく見て笑っている。歌も好きだ。食べることに興味あり、写真でのメニュー選びは繰り返し質問しても嫌がらず、ずっといい表情で見ている。よく見比べているが、どれも好きな様で反応は微妙。中でもとんかつ（メニューのひとつ）は、いい表情で応える。

H君 教員劇をよく見ている。バスや歌にいい表情を示す。またよく見ている。メニュー決めは楽しそうである。レストランの場面もよく見ていた。カレーライスを食べたいと意思表示した。

Oさん ハンドベルは教員がひいてくれると、初めと終わりをよく意識していた。レストランの場面では食事がすぐに出てくるものと思い、期待して見ていた。

(5) 社会見学当日の様子

スクールバスの中

音楽鑑賞中

レストランで

全体

C君 ハンドベルの音は腕を振って「カラーン」と鳴る音よりも、ベルを上において平の振り子をベルに当てて鳴るチャカポコとした音を楽しそうに聞いていました。昼食の親子丼も美味しくって笑顔満開の一日でした！

N君 『実際にハンドベルに触れてみよう！』のコーナーでは、イングリッシュハンドベルよりもトンチャイムを楽しそうに鳴らしていました。昼食のカレーライス&アイスクリームも美味しくって大満足。食後には生涯学習センターロビーを歩いてお散歩。身も心も充実した一日でした。

OKさん 演奏の始めのうちは、驚いてしまいましたが、中盤の「猫バス」からテンポのよいかわいらしい曲になると楽しさ爆発！元気よく行進し、リリアーレさんに近づき興味津津でした。食事後に和室で女子だけのひとときを過ごしましたが、とても心地よさそうでした。

OBさん 静かな曲は笑みで、リズムカルな曲は身体を揺らして楽しさを表現しました。一番のお気に入り「さんぽ」。立ち上がって拍手をしながら歩きました。最後は「楽しかったよ！」と大きな声で伝えることができました。

H 君 行き帰りのバスの中では、実に楽しそうにすごしていました。反対車線に車が通る度に、明るい声をあげていました。リリアーレさんの演奏には、聴き入っていました。気に入ったのは、「さんぽ」でした！食事のあとセンターの中を、ゆっくり散歩しました。演奏も散歩も大満足。

H 君 朝からお出かけの雰囲気わくわくした笑顔でした。ハンドベルの演奏では、きらきらした楽器が動く様子をしっかり視線を向けて見ていました。「キラキラ星」「ドレミの歌」（3グループの演奏曲）で大変盛り上がりしていました。

T さん バスの中からとても楽しそうでした！リリアーレさんの演奏は軽快な曲が好きで、「猫ばす」の時はパッと笑顔になっていました。お試しでハンドベル演奏をする時、白い手袋をつけましたが、いたずら心がムクムクとわいてきて、サツととって「アハハ」と笑っていました。

T 君 バスの中でも楽しそう。窓の外を眺めていました。ハンドベルの演奏は楽しみにしていて、演奏が始まるとニコニコ。気分が盛り上がってくると「ハアッー」と声をあげていました。食事も全部食べ、アイス、ウエハースも食べて満足でした。

A さん 行きのバスの車内では、「しおり」をずっと見て予習はばっちり。リリアーレさんの演奏は静かに鑑賞していました。食事はデザートアイスが特に気に入りでゆっくり味わいながら食べました。午後の和室での休憩も、友だちや先生との楽しいひとときになりました。

I さん 残念ながら当日欠席でしたが、事後学習では、運転手さんの所に近づいて行って気持ちを伝えているようでした。休み時間にバス乗車体験をすると、最初は緊張しているようでしたが、最後は笑顔になっていました。事後発表会をする時、司会の運転手のおじさんが出てくると、「あーあー」と声を出していました。

6) 事後学習について

- ・社会見学のしおりに社会見学当日の写真をはり、振り返りの学習を行った。

N 君 写真を選ぶ・貼るの作業は教員と一緒にいった。写真を貼り終えた「しおり」について、特に食事に関する頁をよく見ていた。

H 君 一通り写真を見せると、バスの乗っている時のもの、食べている場面等に顔をあげていた（教員と目を合わせていた）。両面テープのテープをはがした。教員と一緒にトントンと押して貼っていった。

I さん 両面テープのテープをはがしていた。写真は教員が「しおり」においたものをトントンとやったり、押さえたりしていた。

T 君 楽しかったこと（バスの中、ハンドベルの演奏）の話しをすると、得意げで嬉しそうな笑顔になる。

(7) その後の生徒たち

- ・その後の生徒たちの変化であるが、同じ年度の中で、この事前学習や行事を実施したことによる生徒たちの変化について、改めて指摘するほどの内容は認められなかった。

しかし、1年が経過し、このグループの生徒たちは再び今年6月に、社会見学（今回は新宿のデパートに食事と買い物で行く。）を体験した。今回も同じような事前学習を行い本番を実施した。すると食事の場面でも、買い物の場面でも本人たちの持っている力が十分に発揮されていたように感じた。特に買い物は、ターミナル駅のデパートの地下であったため、雰囲気は普段と大変違っていたが、それでも生徒たちは教員と一緒に目的の商品を見つけたり、店員さんのお金や商品のやりとりを割合スムーズに行っていた。（保護者から聞き取りをしてみると、大きなターミナルのデパートに買い物に行った経験がないケースがほとんどだった。）

(8) まとめ

- ・異動後1ヶ月を経ずに準備を始めなければならず、特に事前指導をどう展開するか考えるのが大変だった。生徒の実態を踏まえ、上記のような事前・事後学習を行ってみた。
- ・行事担当者が担当する授業を使い、事前学習を4回+α、事後学習を1回行った。
- ・事前学習ではシュミレーション劇形式で、社会見学の本番への期待を生徒に育てようとした。
- ・食事（昼食）については、シュミレーション劇と写真メニューで意識化（イメージ化）をねらった。お金のやりとりも劇の中で行った。
- ・さらに「しおり」に交通手段、施設、音楽鑑賞の楽器、食事の写真を貼ることにより、社会見学のイメージの定着をねらった。
- ・メニュー選びは、事前にする工夫を行った。当日メニューを選ぶこと、お金のやりとりができないことから、事前学習でそれらをやるように工夫した。
- ・事前学習の中では、バス乗車の場面と食事の場面、食事メニューを選ぶ場面が生徒達の印象に強く残った様子だった。生徒が一番集中し、反応がよかったところである。
- ・当日の生徒の様子：バスの中では、バスに乗ることを楽しんでいる生徒が多かった。ハンドベル交流でも、食事でも普段の力が発揮できた。
- ・事後学習でしおりに写真をはっていったが、貼る写真に対し関心を向けたり、選んだりすることができた。
- ・保護者からは、★印の要望が聞こえていたが、事後に批判的な意見は聞こえなかった。